

【パネリスト紹介】岩手県生活衛生営業指導センター評議員

元岩手県環境生活部技術参事兼県民くらしの安全課総括課長 白岩利恵子（しらいわ りえこ）氏

盛岡市出身で獣医師。昭和53年6月、岩手県職員として初めての女性獣医師として採用され、保健所や食肉衛生検査所等公衆衛生の分野で勤務。退職後は（一社）岩手県獣医師会で勤務、令和元年度から（一社）岩手県獣医師会理事兼食鳥検査センター所長、現在に至る。

現在、岩手県生活衛生営業指導センター評議員であるが、平成29年度から（公社）日本獣医師会女性獣医師活躍推進委員会委員、令和5年度からは同委員会委員長に就任。

令和3年度に内閣府食品安全委員会専門委員に就任し令和7年度まで食の安全安心確保に努めた。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波では、対策本部支援室支援物資調達チームのリーダーとして、全国からいただいた支援物資を無駄にすることなく（公社）岩手県トラック協会と協働で被災者に届けたが、岩手県生活衛生同業組合による被災地へのお弁当の支援についても円滑に配送できるよう県として後方支援した。現在も全国でその取組みについて講演を行っている。

2-1 被災地への弁当支援事業

震災直後のお弁当支援 盛岡地区生活衛生同業組合連絡協議会



極力地元の食材を使い、また、沿岸部の被災者を思い、魚や野菜も多く入れるよう努力した



ちらし寿司以外は、ご飯とおかずのトレーは別々にしました



取引業者の保冷車をお借りして、盛岡市内の事業者が作ったお弁当を持ち寄り、一括搬送した。

2-2 被災地への弁当支援事業

事業内容と効果検証

- (1) 4月7日(震災から26日後)から避難所が解消される8月下旬までの間、災害救助法にもとづく避難所弁当(被災した生徒の学校給食を含む) 60万食を届けた

- (2) 4地域に分割し支援 (被災地が南北に約160kmと広範。搬送時間を考慮)
 ・久慈地区・・・久慈市、野田村、田野畑村の被災地を担当
 ・盛岡地区・・・山田町、宮古市の被災地を担当
 ・花巻、北上、遠野地区・・・盛岡市、大館市の被災地を担当
 ・奥州地区、一関地区・・・大館市、陸前高田市の被災地を担当

- (3) 前半は内陸部の事業者、後半は被災地事業者、業務の一部を引き継ぎ。

- (4) 事業者への弁当代金は1週間単位で支払い完了。地元の新鮮な食材の確保や良質の弁当作りにも集中できた。

- (5) 食中毒事故を起こさずに終了。片道100km以上あり、配り終えるのに3時間から5時間ほどを要した

- (6) 岩手県流通課が市町村と連携して、弁当必要量を調べ、県指導センターへの見送り窓口事業者への連絡調整、事業者への早期支払いなどを円滑に行った事が成功の秘訣

- (7) 弁当支援事業に取組み、経営危機を乗り越えた店もある

- (8) 事業者間の一体感が生まれ、連携が深まり、次の復興支援事業へと展開

2-3 「広範な被災地」を分割し支援！

